

福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

社会福祉法人 藤雪会
保育園ViVi

平成30年 1月29日

株式会社フィールズ

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構 認証第6号

目次

評価結果総括

- 評価方法 1
- 総合評価 2
- 評価領域ごとの特記事項 5
 - 人権の尊重
 - 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供
 - サービスマネジメントシステムの確立
 - 地域との交流、連携
 - 運営上の透明性の確保と継続性
 - 職員の資質向上

分類別評価結果

- 利用者本人（子ども本人）の尊重 8
- サービスの実施内容 12
- 地域支援機能 16
- 開かれた運営 17
- 人材育成、援助技術の向上 18
- 経営管理 19

利用者本人調査

- 利用者本人調査結果 20

家族アンケート結果

- アンケートの概要 25
- アンケート結果 26

事業者コメント

- 事業者からのコメント 31

評価結果総括

法人名 社会福祉法人 藤雪会
事業所名 保育園 ViVi
施設長名 斎藤 美好

□ 評価方法

自己評価方法

実施期間 平成 29 年 7 月 10 日～平成 29 年 11 月 8 日
実施方法 全職員が合議して自己評価を実施し、施設としてまとめた。

評価調査員による評価方法

実施日 平成 29 年 12 月 14 日、平成 29 年 12 月 21 日
実施方法 評価調査員が訪問し、施設の見学、資料確認及びヒアリング等で実施した。

利用者家族アンケート実施方法

実施期間 平成 29 年 10 月 23 日～平成 29 年 11 月 14 日
実施方法 施設から利用者家族へ配布し、返送は直接家族より評価機関に郵送してもらった。

利用者本人調査方法

実施日 平成 29 年 12 月 14 日、平成 29 年 12 月 21 日
実施方法 訪問調査時に保育見学、食事や活動場면을観察して行った。

□ 総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

[施設の概要]

保育園 ViVi は小田急線本厚木駅から徒歩で 20 分ほど、バス停「愛光病院前」から徒歩 2 分の所にあります。6 階建てビルの 1 階と 2 階の一部が保育園です。園の近くを相模川が流れ、近隣には多くの公園があり、子どもたちは天気の良い日は毎日、河原や土手、原っぱ、公園などに出かけています。

定員 40 名の小規模保育園で、開設して 14 年目になります。生後 4 か月の乳児から受け入れ、現在は 47 名が利用しています。少人数の特性を活かし、異年齢クラスや縦割り保育を展開し、子どもたちの兄弟姉妹のような関わりを大切にしています。

保育目標に「意欲にあふれ、主体的に活動する子ども」を掲げています。毎日の外遊びを基本にしなが、元気で明るい子どもに育つことを目指しています。運営は社会福祉法人「藤雪会」で保育園や障がい児支援、高齢者福祉事業を幅広く展開しています。

《優れている点》

1. 合同保育の中で少人数のクラスを設け、一人一人の成長、発達を丁寧に支援しています

乳児クラス、幼児クラスの合同保育時間が多い中で、一人一人の育ちを丁寧に支援しています。1 階園舎は構造上、乳児室と幼児室に分かれています。職員配置の関係を踏まえて、0・1 歳児が 1 部屋、2 歳児と一時保育が 1 部屋、3・4・5 歳児が 1 部屋に分かれて保育をしています。40 名定員の少人数保育園であり、各クラスの定員は 0 歳児 5 名、他のクラスは 7 名の少人数ですが、年齢別にクラスを設け、担任を置き、クラスごとの日誌をつけ、クラスごとの指導計画を作成して一人一人の成長発達を丁寧に支援しています。

0・1 歳児は一緒に過ごしていますが、子どもに合った午睡時間を確保するために、保育士はおんぶなどで工夫しています。3・4・5 歳の幼児は常時合同の異年齢クラスですが、食事は年齢別のテーブルで食べ、製作では同じ素材でも年齢に応じたプロセスで仕上げるなど配慮しています。天気が良ければ、必ず近くの公園や河原など園外へ出かけていますが、目的地ではそれぞれの年齢に応じた場所で年齢に応じた遊びを展開しています。

2. 自然の中で遊びながら体力をつけ、ルールを学び、近隣の方との交流を楽しんでいます

近隣の自然や環境を利用して、子どもたちは日々園外で元気に活動しています。園には園庭の設置がありませんが、近くには相模川や原っぱ、多くの公園があり豊かな自然に恵まれています。天候が悪い日以外は子どもたちは毎日散歩に出かけています。

5歳児は3歳児の手をつないで、しっかりエスコートしています。目的地に着くまでには交通量の多い道路の横断歩道を渡り、市民菜園の通路では地域の方から声をかけられ、笑顔で挨拶を交わしています。公園では遊具やわらべうたなどさまざまな遊び、河の土手では木登りや枯葉潜り、原っぱでは虫探しなど自分の好きな遊びに夢中です。4・5歳児は年に8回、日ごろの散歩の成果を発揮して、一日がかりで近くの山やたんぼなどに出かけています。この園外保育はクラスごとに下見をして十分な準備をしたうえで、保護者の協力を得てお弁当を持参し、バスなどの公共の交通機関を利用して実施しています。

3. 地域の子育て家庭を積極的に支援しています

子育て家庭の地域とのつながりづくりや、保護者のリフレッシュを目的として親子サロン「にこにこほっぺ」を無料で開催しています。毎週木曜日に開催し、昨年度の実施は51日、参加者は大人228人、子ども267人でした。園内2階の多目的室を会場として、親子サロン専任職員を配置しています。時には在園児と一緒に散歩に行き、食育、わらべうた、気功と推拿、工作とおしゃべりなどの活動をしています。また、地域のニーズに応じて定員10名の一時保育を実施しています。毎日7名前後が利用しており、専任職員を配置して、園の1クラスとして園だよりも他クラスと同じように活動の様子を紹介しています。2階部分に併設されている児童発達支援デイルームとんとんを利用する子どもが、保育園児との生活体験を希望して一時保育を利用することもあり、障がい児の受け入れも積極的に行っています。障がい児の適切な対応のために厚木市の児童発達支援センター等の専門機関と定期的にカンファレンスを行い、園内会議で情報共有しています。

《課題や改善することが期待される事項》

1. 中長期的な事業の方向性を定めた「計画」の作成が期待されます

法人の単年度の事業計画では、老朽化施設の建替え計画等について検討されています。しかし、保育事業者には、地域社会における貴重な社会福祉資源である保育所を安定的かつ効率的に運営することが求められています。同時に、現在および将来の環境条件に適切に対応した、より質の高い保育サービスの提供も必要となっています。

将来の地域における保育ニーズや資源の確保・活用等を含め、環境条件に対応し、中長期的な事業の方向性を定めた「計画」を作成することが期待されます。

□ 評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ① 保育理念に「乳幼児の最善の利益を基本に保育を進める」「一人ひとりの子どもの育ちを支える」「保護者の子育て、働くことを支援する」「子育てしやすい環境づくり、地域づくりを進める」を掲げています。また、「子どもの権利や一人ひとりの育ちを保障した保育を行い、保育を必要としている子どもたちがより身近な地域の中で多くの大人たちに見守られながら育つ場を作りだし、子どもたちが楽しく生活する場を提供する」を保育の基本方針としています。これらの理念や方針は子どもを尊重し、保護者を支援するものとなっています。
- ② 『目の前の子どもたちから学ばせてもらう』との思いを持ち、保育者にとっても子どもに教えられる立場であると考え、園では保育者のことを先生ではなく『〇〇さん』と子どもたちが呼んでいます。先生として子どもたちに教えたり指導したりするのではなく、生活を共にする人として、一緒に笑ったり、考えたり、正しいことを伝えたりすることを大切にしています。
- ③ 法人の「個人情報保護に関する基本方針」をもとに、職員や保護者・見学者・実習生などに個人情報保護について周知しています。職員は入職時に研修し、保護者からは園だよりやホームページへの写真掲載についての承諾書を得ています。個人情報の含まれている書類は、警備会社のセキュリティのかかる部屋で厳重に保管しています。

2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ① 保育課程は理念、基本方針にもとづき、園長・主任がたたき台を作成し、職員間で検討して4年前に作成しました。園は40名定員の小規模保育園で、乳児と幼児の2グループでの活動が主となっていますが、年齢別のクラスを設けています。保育課程には「年齢別のねらい」を大きく取り上げ、各年齢の子どもの発達保障に配慮しています。保育指針の改訂に合わせて、見直しを予定しています。保護者には入園時や年度初めの懇談会で、毎年、見直しをしている「保育園 ViVi のしおり」をもとに説明しています。
- ② 子どもたちの遊びの幅を広げ、運動の力を高め、健康増進の活動としてわらべうたや夏季のスイミング教室・JAGY（ダンスと体操を合わせたようなもの）に取り組んでいます。保育士はわらべうたの研修で技術を磨きながら、日々の保育の中で様々な場面（朝の会・帰りの会・手遊び・縄跳び・集団遊びでルールや順番を伝える時など）で使用しています。JAGYは子どもたちの運動量の確保のために取り組み、近隣のスポーツセンターを借りて、毎月1回外部の専門講師を招いて指導を受けています。子どもたちは運動会や高齢者施設訪問時に日ごろの成果を披露しています。夏季のスイミング教室には4・5歳児が参加して、着衣水泳の体験もしています。
- ③ 保育士作成の「食育計画」と厨房職員作成の「給食のコンセプトと年間計画」をもとに食育を展開し、手作りでおいしい、安心安全な給食の提供に努めています。食育の一環として地域の方から畑を借りて、さつま芋やジャガイモ、ダイコンなどを年間通して育て、毎月1回クッキングの日を設けて、梅ジュースや味噌づくりなどの体験をしています。5歳児クラスになると給食当番や米研ぎが始まります。米研ぎは保育士と一緒にマンツーマンで順番に行い、炊飯器でごはんを炊き、幼児クラス用として給食に出されています。

3. サービスマネジメントシステムの確立

- ① 指導計画は年間、月間、週日案を丁寧に作成しています。月間指導計画には週ごとの計画、週日案には日案が盛り込まれており、月間指導計画と週案、日案が自動的に連動するようになっていきます。乳児クラスでは月案に一人一人の個別指導計画を盛り込んであります。計画には「前月の子どもの様子、ねらい、食育、具体的ななかかわり、ふりかえり」欄が設けられており、次月につながるようになっています。
- ② 事故や怪我の再発防止に向けて、「ヒヤリハット報告書」「ケガの報告書」「事例報告書」「事故報告書」を作成しています。「事例報告書」「事故報告書」には事故発生から予防策の検討まで、詳細に記録されています。「ヒヤリハット報告書」は日々の些細な危険や気づきを簡潔に記載しており、全職員が毎日、閲覧してお互いに保育時の注意を促すものになっています。報告書は毎月、統計処理し、危険な時間帯や場所などの参考にしています。
- ③ 保護者会は単独の活動はしていませんが、毎年役員を交代しながら、運動会や餅つき、夏まつり、お楽しみ会などの園行事に協力いただき、連携しています。園長が保護者会との窓口になっています。毎年の役員決めについては園側で、懇談会の際などに保護者に依頼しており、園だよりで保護者会の役員を紹介しています。夏まつりでは保護者会で「おとうさん相撲」など3つのブースを担当し、お楽しみ会では保護者の出し物を職員と相談しながら決めています。

4. 地域との交流・連携

- ① 週に1回、園内で定期的に行っている「親子サロン」で、情報提供や育児相談を実施しています。「親子サロン」についてのお知らせは、近隣のスーパーマーケットや市役所等の公共施設に掲示し参加を呼びかけています。食育に関することでは、簡単にできる夕食や手作りおやつ作り、食品添加物や保存料に関する知識なども話しています。また、親子サロンの場で地域住民の相談事業を実施しており、電話による育児相談も随時対応しています。
- ② 毎年、園内で開催している1月の餅つきと8月の夏祭りに地域の方を招待し、近隣の公園の清掃活動には定期的に参加しています。中学校生徒の職場体験や中高校生のボランティアを積極的に受け入れています。定期的に行っている「親子サロン」参加者に部屋の開放や備品の貸し出しを行っています。近隣との友好関係づくりとして、園児が利用している保育所裏手の路地を清掃したり、散歩の際に地域の方と挨拶を交わしたりしています。
- ③ 地域へのサービスの提供については、地域のニーズに応じて一時保育を定員10名で実施しています。また、園の保育に積極的に取り入れている「わらべうた」の講座に地域の方にも参加いただいています。「親子サロン」終了後に、参加者の要望がある時は会場を引き続き開放しています。

5. 運営上の透明性の確保と継続性

- ① 法人のホームページでは、サービス内容、各年度の現況報告、事業報告、決算報告などを掲載して情報提供をしています。また、園のブログでは、親子サロン、中学生の職場体験、遠足、運動会、誕生会など、日々の活動を掲載し紹介するなど、常に最新の情報を提供しています。また、園発行の「保育園 ViVi のしおり」には、施設の概要、保育理念、保育方針、職員体制、保育時間、利用料等の情報を掲載しています。
- ② 重要な意思決定に際しては、職員、保護者に説明し理解を得るよう努めています。保育所の分園開設や増築・定員増に当たっては保護者懇談会で説明し保護者の理解を得ています。分園開設に伴い、新園長を選定する際には、保育現場を含め、法人内での意見交換を踏まえて決定しています。また、4・5 歳児が参加する夏季のスイミング教室は、保護者の要望を踏まえて事業内容を決定していますので、園の主要な活動の1つとして定着しています。
- ③ 法人本部で保育所の新設や老朽化に伴う建替えについて計画し、用地選定、行政情報の収集などに積極的に取り組んでいます。法人の施設長連絡会議では、人材育成の計画について意見交換をしています。保護者との連絡等について ICT を導入しました。スマートホンをかざしての送迎チェックやメールでの欠席等の連絡、さらには園で撮影した写真の注文など、ICT を活用して運営の効率化を図っています。また、園の経理、労務に関わっている会計士や社会保険労務士から、経営の安定に向けたアドバイスを受けています。

6. 職員の資質向上の促進

- ① 人材育成に関する計画については現在法人内で検討を進めています。保育内容については、学期ごとに「保育チェック表」を用いて振り返りを行い、これをもとに園長と面談して保育の改善につなげています。年1回全職員対象に理事長面接を実施しており、資質向上に向けた目標等を話し合っています。法人研修を定期的実施しており、職員は交代で参加しています。保育短期大学や市社会福祉施設連絡会などが主催する外部研修にも積極的に参加しています。外部研修については、参加者が報告書を作成して回覧し、月1回開催されるミーティングで報告しています。
- ② 月・週・日ごとの指導計画に対応し、それぞれの保育の振り返りを行っています。3歳未満児については、個別指導計画に対応して個別に振り返りを行っています。また、保育日誌では、指導計画に対応した保育記録と振り返りを記載しています。日誌は毎日、園長、主任が確認し、必要な場合にはアドバイス、コメントを記載し職員をサポートしています。職員の振り返りの中から必要な事例について、園長、主任が取り上げてミーティング等で全職員が共有しています。
- ③ 防災、保健衛生、社会貢献、教材、広報、各行事等について、それぞれ担当職員が責任を持って企画、実施するなど、職員の資質向上に向けた体制をとっています。散歩時の判断は、主任と副主任に任されており、一時保育の予約は担当者の判断で受付するなど、現場で責任を持って対応しています。また、日誌やヒヤリハット事例の中から改善提案があれば、職員会議等で意見交換して業務改善に取り組んでいます。

分類別評価結果 (および理由)

※ ひょう太マークは各項目において下記の水準をあらわしています。また、各項目ごとにひょう太の数の理由のコメントがあります
 3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

I 利用者本人の尊重

I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成



- ① 保育理念に「乳幼児の最善の利益を基本に保育を進める・一人ひとりの子どもの育ちを支える・保護者の子育て、働くことを支援する・子育てしやすい環境づくり、地域づくりを進める」を掲げています。また、「子どもの権利や一人ひとりの育ちを保障した保育を行い、保育を必要としている子どもたちがより身近な地域の中で多くの大人たちに見守られながら育つ場を作りだし、子どもたちが楽しく生活する場を提供する」を保育の基本方針としています。これらの理念や方針は子どもを尊重し、保護者を支援するものとなっています。
- ② 保育課程は理念、基本方針にもとづき、園長・主任がたたき台を作成し、職員間で検討して4年前に作成しました。園は40名定員の小規模保育園で、乳児と幼児の2グループでの活動が主となっていますが、年齢別のクラスを設けています。保育課程には「年齢別のねらい」を大きく取り上げ、各年齢の子どもの発達保障に配慮しています。保育指針の改訂に合わせて、見直しを予定しています。保護者には入園時や年度初めの懇談会で、毎年、見直しをしている「保育園 ViVi のしおり」をもとに説明しています。
- ③ 日常の保育では、子どもの気持ちや要求・希望に出来る限り応えることを大切にしています。泣いている子どもは、そのままにしないで必ず対応しています。訪問調査日、散歩に同行しましたが、保育士はおんぶ紐を持参し、ぐずって泣いている子どもをおんぶして安心させていました。運動会では3・4・5歳児を2グループにしてリレーを行いました。走る順番は5歳児が主となって考えています。また、おたのしみ会の際は子どもたちの希望で発表する劇を決めています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ① 入園前に保護者・子どもと一緒に面接を行って、子どもの様子を観察しています。面接は園長または主任が担当し、保護者の心配や気になる点などに丁寧に答えるようにしています。家庭から提出される児童票や入園までの生活状態の記録などで子どもや保護者の状況を把握しています。家庭での様子を聞いて、入園当初の子どもへ適切な対応が取れるように努めています。入園児の情報は担任に伝え、クラスミーティングで共有して保育に活かしています。
- ② 入園時の子どもの負担軽減のために、短縮保育を行っています。面接時に2週間を目安に実施していることを伝えていますが、保護者や子どもの状況に応じて柔軟に対応しています。0・1歳児クラスは担当制をとって、子どもとの愛着、信頼関係を築けるようにしています。子どもの遊びや生活面の保育はクラス全体で行っていますが、指導計画・日誌・連絡帳・記録・保護者対応は担当が受け持って、一人一人の成長、発達をきめ細かく把握しています。

- ③ 全園児に連絡帳を使用して、保護者に園での子どもの状況を伝えています。0・1・2歳児は園と家庭とで、食事・排泄・睡眠・機嫌・言葉など生活全般について情報交換し、子どもの成長ぶりを確認しています。幼児クラスはノート式の連絡帳や掲示で、子どもの様子や連絡事項などを伝えています。
- ④ 保育課程をもとに年間指導計画、月間指導計画、週日案をクラスごとに作成しています。0・1・2歳児と特別に配慮を要する子どもについて個別指導計画を作成しています。指導計画は担任が作成し、園長、主任がチェックしています。各計画には反省・評価、自己評価、ふりかえりなどの欄が設けられており、次につなげられるようになっています。計画作成に当たって、保護者の希望も取り入れています。4・5歳児は夏季、地域の大きなプールに行っていましたが、閉鎖になった時は、保護者会からの要望で近くのスイミング教室への参加に変更しています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ① 園内は床、壁面、扉などに無垢材を多用し、温かみのある雰囲気になっています。玄関や保育室に子どもの持ち物や、作品、掲示物などを壁いっぱいに掲示しています。園内の清潔を保つため、勤務表に清掃当番を明示して順番に清掃しています。早番掃除チェック表、遅番チェック表、2階部分掃除チェック表で毎日チェックし、土曜日にはエアコンフィルターや砂場玩具やぬいぐるみ、雑巾の洗濯など、平日には出来きれない部分の清潔についてもチェック表で管理して、清潔が保てるように努めています。
- ② 園内はエアコン設備で快適な温度を保っており、園児は全員が素足で過ごしています。保育室には加湿機能付き空気清浄機とさらに加湿器を設置していますが、乾燥がひどい場合はタオルを干すなど調整しています。各部屋にはトイレが隣接しているため、常に清潔にするとともに、紙パンツの交換はトイレの中で行い、便臭が残らないように窓を開けるなど配慮しています。窓を開けたことによる苦情などはありませんが、3・4・5歳児合同クラスは27名1クラスのため、保育士や子どもの声が大きくなることもあります。気をつけるよう努めています。
- ③ 乳児クラスには0・1歳児室と2歳児室があります。2歳児室はロッカーで仕切り、2歳児と一時保育の子どもの部屋として使用することが多くなっています。3つのスペースを当日の活動内容や、子どもの状況によって柔軟に使用しています。食事は2歳児スペースで全員が食べ、午睡は0歳児室に布団を敷いて寝ついたところに、2歳児室に移動して一緒に見守っています。スペースが限られているため、食べる・寝るなどの機能別な空間を確保することは難しい状況です。幼児クラスは1部屋で食事をした後で清掃して午睡をしています。幼児、乳児とも常時、異年齢と一緒に過ごしていますが、2階の一時保育室や多目的室が空いている時は、子どもたちが移動して、さまざまに使用しています。0歳児室には沐浴室があり、温水シャワーが設けられています。設備管理の課題に対して、担当責任者を置いた管理を検討しています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ① 3歳未満児については個別指導計画を作成し、幼児についても特別な配慮が必要な場合は個別指導計画を作成しています。満3歳までは月案に一人一人の個別指導計画が盛り込んであり、毎月作成されています。個別指導計画には「前月の子どもの様子、ねらい、食育、具体的ななかかわり、ふりかえり」欄が設けられており、一人一人、丁寧にきめ細かく保育しています。離乳食の進め方や排泄など、連絡帳や口頭で保護者と情報交換しながら進めています。

- ② 入園時に提出される児童票や入園までの生活状態の記録などで、子どもに関する基本的な情報を把握しています。入園後の子どもの成長発達記録は育成記録や保育日誌、個別指導計画などで記録されています。育成記録には年齢ごとの発達チェック表と子どもの全体状況が0、1歳児は毎月、2歳児以上は1年を4期に分けて記録しています。基本情報の共有については、乳児、幼児それぞれのクラス担当職員に情報伝達しています。育成記録は所定の場所に保管してあり、全職員がいつでも閲覧できるようになっています。
- ③ 進級時については複数担任であれば、一人が持ち上がるように努めていますが、職員の退職などもあり、困難な場合もあります。新年度になる前に新担任と旧担任が事前に口頭で引継ぎをし、新旧担任が一定期間、一緒に保育に入って引継ぎをしています。また、新年度の年間指導計画の1期分については旧担任が作成するようにしています。
- ④ 就学に向けて保育所児童保育要録を担当が作成し、1月末までに学校に送付しています。個別に配慮の必要な子どもについては、事前に連絡し、園での生活を知ってもらうように依頼しています。入学後は参観を依頼して、入学後の子どもの様子を把握するようにしています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ① 子どものケース検討については、乳児会議、幼児会議の中で話し合っています。建物2階には同法人の運営する障がい児の「児童発達支援デイルームとんとん」があり、座位が取れない子どもについての助言を得るなど、連携しています。また、新聞などで事故や参考になる記事が掲載された時は、全職員に回覧し、情報の共有に努めています。
- ② 在園児・一時保育児とも障害があることで受け入れを断ったことはありません。園内はバリアフリーでない部分もありますが、移動が困難な子どもは職員が抱いて移動するなどして対応しています。障害のある子どもも同年齢のクラスに在籍し、他児と同じように過ごしています。通所している児童発達支援センターや病院とは、保護者経由で連携をとりながら保育をしています。課題が出て来た場合は通所先とケースカンファレンスを行い、助言を得たり、通所先の個別支援計画を参考に保育を進めています。
- ③ 虐待は早期発見が大切であるとの認識から、毎朝の視診を丁寧に行っています。全園児について家庭での朝の体温・朝食・爪・髪の清潔・下痢・咳・眼の潤み・キズ（顔・手・足）など一覧表でチェックしています。また、午睡前や身体測定時に全身のチェックをしています。保護者との信頼関係づくりに努め、保護者の負担軽減に配慮しています。子どもの朝食が事情によって取れない時には、保護者に申し出を依頼し、園でおにぎりなどを食べられるようにしています。虐待が疑われるような場合は厚木市の家庭相談課に相談し、状況に応じて地域の民生委員にも見守りを依頼することもあります。
- ④ アレルギー児への対応は、マニュアル「アレルギー対応について」を整備しています。保護者からの申し出により、「アレルギー疾患生活対応表」を配付し、医師が診断し、記入して園に提出しています。「アレルギー疾患生活対応表」は喘息やアトピー性皮膚炎、食物アレルギーなど、様々なアレルギー疾患への対応について詳細に記載されています。この表をもとに保護者と園長、担当職員で面談し、園での対応を確認しています。食物アレルギーのある子どもへは除去食や代替食で対応し、毎月の献立表を保護者がチェックし確認しています。対応食は厨房、担任受取時にダブルチェックし、個人分をトレイに入れて食札をつけ、職員がそばについて誤食の無いようにしています。

- ⑤ 両親のどちらかが外国籍の子どもが在籍していますが、子どもは特に違いなどを意識することなく一緒にすごしています。文化の違いなどによる食事についての配慮が必要な場合は対応しています。言葉が通じにくい場合は、個別に実物を見せて、身振り手振りで丁寧に説明しています。また、園と同じ建物内にある大人向けの日本語教室「多文化ともだちセンター日本語教室」の講師に対応を相談するなどしています。

I-6 苦情解決体制



- ① 保護者等からの苦情や要望については、マニュアル「ご意見・ご要望の解決のための仕組みについて」に沿って対応しています。苦情の受付担当者は主任、相談解決責任者は園長です。納得がいかない場合には第三者委員に直接相談し、話し合いへの立ち合い・助言を求めることを「保育園 ViVi のしおり」で紹介しています。自分で意見を表明することが困難な場合への配慮までには至っていません。今までに、第三者委員に相談があった例はありません。地域の児童委員に第三者委員を依頼しており、運動会や餅つき、お楽しみ会などに招待し、園の状況を伝える機会としています。
- ② 保護者などからの要望や苦情は、連絡帳や朝晩の送迎時に直接、口頭で聴いていますが、保護者の様子によっては担任から声をかける場合もあります。苦情があった場合は速やかに園長に報告し、園長は主任と相談して解決策を検討しています。苦情は「苦情受付記録書」「話し合い結果記録書」「改善結果報告書」に詳細に記録する仕組みが出来ています。保護者から駐車場が少ないとの申し出があり、3台から4台にしています。また、近隣住民から、園で借りているビル裏の遊び場が汚れているとの指摘があり、定期的に点検・清掃するようにしています。苦情内容は運営法人に報告し、データ化して解決に活かしています。

Ⅱ サービスの実施内容

Ⅱ-1 保育内容【遊び】



- ① 園児たちは天気が良ければ園外に出かけて、10 ヶ所以上もある近隣の公園や広場、河川敷などで土手にのぼり、枯葉に潜り、石やどんぐりを拾い、野に咲く花を摘み、虫を探すなど自然の中で、自分で遊びを見つけて遊びこんでいます。また、日々の散歩の成果を発揮して、3・4・5歳児合同で年に8回、園外保育として弁当持参、バスなどの公共交通機関を使って田んぼでの遊びや白山・高松山などの山登りにも挑戦しています。
- ② 0・1歳児クラス、2歳児クラス、3・4・5歳児クラス、一時保育クラスに分かれて保育しています。各部屋には絵本棚、年齢に応じたおもちゃの収納してある戸棚、衣装ケースのなかの遊び用ドレス、幼児用の個人道具箱など、部屋の状況や季節、年齢に応じておもちゃを保管し、子どもたちは保育士に欲しいものを伝えたり、自分たちで出したりして遊んでいます。小さくて丸い玩具は飲み込む危険があるため、置かないようにしています。部屋を広く使うため、机は全て折り畳み式のものを使用し、椅子はロッカー下の収納にしまうなどの工夫をしています。
- ③ 子どもたちの遊びの幅を広げ、運動の力を高め、健康増進の活動としてわらべうたや夏季のスイミング教室・JAGY（ダンスと体操を合わせたようなもの）に取り組んでいます。保育士はわらべうたの内部研修で技術を磨きながら、日々の保育の中で様々な場面（朝の会・帰りの会・手遊び・縄跳び・集団遊びでルールや順番を伝える時など）で使用しています。JAGYは子どもたちの運動量の確保のために取り組み、近隣のスポーツセンターを借りて、毎月1回外部の専門講師を招いて指導を受けています。子どもたちは運動会や高齢者施設訪問時に日ごろの成果を披露しています。5歳児クラスは年が明けると午睡を切り上げて、就学に向けて文字や数を読んだり書いたりする楽しさや興味を持てるように取り組んでいます。子どもたちは年間を通して、室内では素足で過ごしています。
- ④ 近隣に畑を借り、ボランティアの協力を得て子どもたちが野菜を育てています。畑は市民菜園の一角にあり、近くで畑の世話をしている方から声をかけられ、挨拶を交わしています。さつまいもやジャガイモ、大根など収穫して、調理しておやつにしたり、さつまいものつるはリースとして活用しています。3歳クラスでは職員が捕まえたザリガニを飼育しみんな可愛がっています。
- ⑤ 子ども同士のけんかについての考えを、書面にまとめて保護者に配付し理解が得られるように努めています。書面には年齢ごとの子どもの特徴と保育士の対応を明示するとともに、それぞれの発達段階で何が大切かを丁寧に伝えています。

Ⅱ-1 保育内容【生活】



- ① 保育士作成の「食育計画」と厨房職員作成の「給食のコンセプトと年間計画」をもとに食育を展開し、手作りでおいしい、安心安全な給食の提供に努めています。食育計画では「目指す子どもの像」として「食べることが好きになる子ども・おなかがすいたと感じる子ども・一緒に食事を楽しめる子ども」を掲げ、今年度の食育目標は「よく噛んで食べる」としています。
- ② 厨房職員は常時3名配置され、丁寧な食事作りと、給食会議・献立作成・給食だよりなどを担当して保育士と連携しています。給食だよりはカラー版で保護者の参考になるように、調理の工夫や人気メニューのレシピ、当月の特別メニューなどをわかりやすく紹介しています。玄関には、本日の給食サンプルが献立とともに展示されています。保護者は保育参加の際に給食の試食をしています。

- ③ 食育の一環として、地域の方から畑を借りて、さつまいもやジャガイモ、ダイコンなど年間を通して野菜作りに挑戦し、毎月1回クッキングの日を設けて、梅ジュースや味噌づくりなどの体験をしています。また、5歳児クラスになると給食当番や米研ぎを行っています。米研ぎは保育士と一緒にマンツーマンで順番に行い、炊飯器で炊き、幼児クラスの主食として給食で提供します。
- ④ 午睡は建物の構造上、幼児は合同で1室、乳児は2歳児室をロッカーで仕切って2歳児と0・1・一時保育の子どもが2か所で眠っています。どちらの部屋もカーテンを引き眠りやすい暗さにしています。午前中は園外へ出かけることが多いため、しっかりと休息を取っています。乳幼児突然死症候群への対策として、0・1歳児は5分ごとに顔色、呼吸、眠る姿勢（上・下・横）のチェックをして記録しています。5歳児クラスは就学に備えて年明けの1月には午睡をなくし、文字について関心を深めるなどの時間にしています。
- ⑤ 排泄は子どもの発達に合わせて家庭と連携しながら個別に対応しています。0～2歳児は同じトイレを使用するので、2歳児がトイレに行く様子を1歳児が見て、トイレに興味を示すようになり、オマルを勧めることもあります。2歳になると保護者にパンツの用意を依頼して、おむつパットも使用しながらトイレトレーニングを始めています。トイレトレーニングは子どもの状況に合わせて、保護者と連携しながら、無理なく進めるようにしています。使用済みのおむつ類は保護者の負担軽減のため、園で処分しています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】



- ① 年間保健計画をもとに、子どもの健康管理を行い、一人一人の健康や発育、発達状態を把握しています。計画は毎月の身体測定や内科健診、歯科健診をはじめ、ゲーム・テレビについての話や夏期の熱中症・冬期のインフルエンザ予防など季節ごとに必要な配慮事項についてもきめ細かく対応できるようになっています。入園時に既往症について把握し、登園時には子どもの状態を丁寧に観察して、体温や咳、目の潤みなど9項目についてチェックしています。5歳児クラスになると歯磨き指導を始め、3・4歳児はうがいをしています。
- ② 内科健診と歯科検診を年2回、3歳以上児は年2回の尿検査を行い、保護者には園医作成の結果が記載された書類を渡しています。特に気になる点があった場合は直接、保護者に伝え、保護者、かかりつけ医と連携しています。気になる子どもについて園医に相談し、助言を得ることもあります。また、怪我や子どもの症状で気になる場合は、2階の同法人が運営する児童発達支援ルームに常駐する看護師に相談することが出来ます。
- ③ 「保育園 ViVi のしおり」に登園停止や病院受診の必要な感染症について、保護者に一覧表で周知しています。「治癒証明が必要な感染症」「登園届の必要な感染症」には病名、主な症状、登園のめやすがわかりやすく記載されています。保育中に発症した場合は保護者に速やかに連絡をしています。保護者が仕事の都合などで迎えに時間がかかる場合は、別室で保育士が付き添い、安静にして待つようにしています。園内で感染症が発症した場合は、玄関に掲示して保護者に伝え、万一、発症した場合に備えての連絡体制が取れるように依頼しています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】



- ① 「掃除マニュアル」を始め「嘔吐・下痢処理方法」・「調乳マニュアル」・「おむつ替えマニュアル」・「食中毒発生時の対応」など、さまざまなマニュアルを整備しています。マニュアルは必要に応じて全職員に配付し、随時、見直しをしています。清掃は各部屋、共有スペースなどの「掃除チェック表」を使用して、清潔を保つようにしています。曜日ごとの重点掃除カ所や土曜日にはエアコンや加湿器のフィルター、ぬいぐるみ、雑巾の洗濯など平日には出来ない部分を清潔にしています。

- ② 今年度、加湿空気清浄機に次亜塩素酸ナトリウムを微量混入することを試験的に導入し、室内の清潔・感染症対策に努めています。次亜塩素酸ナトリウムの消毒スプレーを作って室内に散布するなど、感染症の予防に努めています。職員は汚物の処理をする場合、手袋を着用し、ペーパータオルを使用しています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【安全管理】



- ① 「年間安全計画」をもとに、避難・防犯・防災訓練や交通安全のルール、水の危険対策、保護者向け伝言ダイヤル体験など年間を4期に分けて、安全に関する様々な事項を計画・実行しています。個別のマニュアルは「心肺蘇生法」「災害・不審者対応マニュアル」「非常時の対応について」「プール諸注意・エレベーター使用マニュアル」「怪我対応マニュアル」「散歩車について」など多数整備されています。
- ② ロッカーや棚などほとんどが作り付けですが、可動しそうなものには、地震に備えて滑り止めの対策を取っています。各部屋には乳児は防災頭巾、幼児はヘルメットを全員分備えてあります。園のしおりに「防災対策について」として災害時の園の対応について、詳細に伝えています。保護者用災害伝言ダイヤル体験を年2回実施して非常時に備え、「非常災害時園児引き渡し登録カード」を作成しています。緊急時の連絡体制として保護者に登録を依頼し、一斉メールを取り入れています。
- ③ 年間の「消防訓練計画表」に基づいて毎月一回、地震・火災・防犯・洪水などの訓練を実施しています。訓練は時間帯や発生場所（散歩中の発生含む）、2階施設との合同訓練など、種々、想定してどこでも、対応が可能になるように計画しています。園児への安全教育として「交通安全教室」「防犯教室」を実施しています。また、夏季のスイミング教室では大きなプールで泳ぐ楽しさとともに、水の恐ろしさも伝えるために着衣水泳の体験をしています。園内にAEDの設置があり、職員はAEDの使用法、心肺蘇生法の研修を受けています。
- ④ 事故や怪我への対応について「怪我等対応マニュアル」を備えています。園のしおりに「園内での事故（ケガ）発生時の対応」を掲載して保護者に周知しています。事故発生時の対応には発見時の職員の対応から病院に行く必要の有無、必要時の対応、必要なしの対応、診療以降の対応など詳細に記載してあり、保護者に安心を与える内容になっています。
- ⑤ 事故や怪我の再発防止に向けて、「ヒヤリハット報告書」「ケガの報告書」「事例報告書」「事故報告書」を作成しています。「事例報告書」「事故報告書」には事故発生から予防策の検討まで、詳細に記録されています。「ヒヤリハット報告書」は日々の些細な危険や気づきを簡潔に記載してあり、全職員が毎日、閲覧してお互いに保育時の注意を促すものになっています。報告書は毎月、統計処理し、危険な時間帯や場所などの参考にしています。
- ⑥ 外部からの侵入対応策として、年2回の防犯訓練を実施しています。幼児玄関と乳児玄関、2階の出入り口などすべてインターホンで呼び、開錠するようにしています。侵入があった際の対応についてはマニュアルを作成中になっています。

II-3 人権の尊重



- ① 『目の前の子どもたちから学ばせてもらう』との思いを持ち、保育者にとっても子どもに教えられる立場であると考え、園では保育者のことを先生ではなく『〇〇さん』と子どもたちが呼んでいます。先生として子どもたちに教えたり指導したりするのではなく、生活を共にする人として、一緒に笑ったり、考えたり、正しいことを伝えたりすることを大切にしています。

- ② 子どもが発する片言に対して、保育士は丁寧に優しく応えています。園外での活動が多い中で、帰園時間などの関係で子どもたちを急かす場面があるようです。職員の言動で気になる場合は、園長や主任が個別にアドバイスをしています。子どもに対する言葉づかいや、無意識に性差による固定観念で保育をしていないかについて、事例検討やケース検討を行って確認しています。
- ③ 子どもが一人で過ごせる場所としては、部屋の柱と壁の隙間やくぼみ、廊下、玄関などがあります。子どもと1対1で話す必要のある場合は、他の子どもから見えない場所で話しています。性差による役割分担や区別はしていません。グループ分けは男女混合、整列は特に並び順は決めず、用意が出来た順や集まった順など自然に並んでいます。
- ④ 法人の「個人情報保護に関する基本方針」をもとに、職員や保護者・見学者・実習生などに個人情報保護について周知しています。職員は入職時に研修し、保護者からは園だよりやホームページに写真掲載の承諾書を得ています。個人情報の含まれている書類は、警備会社のセキュリティのかかる部屋で厳重に保管しています。

II-4 保護者との交流・連携



- ① 園は40人規模の集団であり、大きな家族のように考え、保護者と保育園が車の両輪のように子どもの育ちを支えて行きたいと保護者に伝えていきます。一人一人の子どもの声に耳を傾けて保育につなげることを大切にしていますが、同時に一人一人の保護者に寄り添い、ともに育つことに努めています。園だよりの新入園児紹介欄には子どもと一緒に映る保護者の写真を掲載して、保護者とともに子どもの育ちを支えることを示しています。昨年度の園の保護者アンケート（回収率100%）では「保育園は悩みや相談に親身になって対応してくれるか」の設問に、「はい」の回答が100%になっています。
- ② 保育の基本方針については「保育園 ViVi のしおり」に記載して入園時や年度始めの懇談会で説明をして同意を得ています。また、園だよりにクラスごとの子どもの様子や当月の活動やねらいを写真とともに掲載して、保護者に保育の様子や園の考えを伝えています。園だよりは忙しい保護者でも、手に取って見やすいように、カラー版で作成してあります。園のブログでは山登りなど行事の際の子どもたちの様子を掲載して保護者に伝えています。
- ③ 連絡帳や送迎時の会話で個々の保護者との日常的な情報交換を行っています。また、クラス懇談会、個人面談、保育参加、保護者参加型の行事を通じて子どもの成長を保護者と保育者で共感、確認する機会としています。保育参加は1日2組を上限に年間通して実施し、全保護者の参加を目指しています。「保育参加マニュアル」をもとに、給食までの参加、午睡後までの参加など保護者の状況に応じて柔軟に対応しています。当日はクラスがなるべく単独になるように調整し、該当する子どもの好きな保育内容を計画して保護者と一緒に過ごし、園の中での様子を伝えるとともに個人面談を行って担任と情報交換をしています。
- ④ 保護者会は単独の活動はしていませんが、毎年、役員を交代しながら、運動会や餅つき、夏まつり、お楽しみ会などの園行事に協力いただき、連携しています。園長が保護者会との窓口になっています。毎年の役員決めについては園側で、懇談会の際などに保護者に依頼しており、園だよりで保護者会の役員を紹介しています。夏まつりでは保護者会で「おとうさん相撲」など3つのブースを担当し、お楽しみ会では保護者の出し物を職員と相談しながら決めています。

Ⅲ 地域支援機能

Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



- ① 地域への子育て支援サービスとして、週に1回、定期的に「親子サロン」を開いており、地域の親子が参加しています。この場での活動を通して、地域の子育てニーズを把握しています。この「親子サロン」は、好評のため参加者の要望に応じて今年から開催時間を30分延長して10時から11時30分まで実施しています。障がい児保育に関しては、厚木市の児童発達支援センター等の専門機関と定期的にカンファレンスを行い、園内会議で情報共有しています。
- ② 地域へのサービスの提供については、地域のニーズに応じて定員10名の一時保育を実施しています。また、外部講師を招いて園の保育に積極的に取り入れている「わらべうた」の講座や予防接種に関する講座を実施しています。「親子サロン」終了後に、参加者の要望がある時は会場を引き続き開放しています。子育てニーズについては担当職員・主任とで話し合いを行っています。

Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能



- ① 週に1回園内で定期的に行っている「親子サロン」で、情報提供や育児相談を実施しています。この「親子サロン」についてのお知らせは、近隣のスーパーマーケットや市役所等の公共施設に掲示し参加を呼びかけています。食育に関することでは、簡単にできる夕食や手作りおやつ作り方、そして食品添加物や保存料に関する知識なども話しています。また、親子サロンの場で地域住民の相談事業を実施しており、電話による育児相談も随時対応しています。
- ② 関係機関との連携については、専門性を要する相談対応のため、必要に応じて厚木市の児童発達支援センターや療育相談センター、児童相談所、行政の窓口と連携をしています。関係機関とは、園長、主任が窓口となって連絡を取っています。

IV 開かれた運営

IV-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



- ① 毎年、園内で開催している1月の餅つきと8月の夏祭りに地域の方を招待し、近隣の公園の清掃活動に定期的に参加しています。中学校生徒の職場体験や中高校生のボランティアを積極的に受け入れています。定期的に実施している「親子サロン」参加者に部屋の開放や備品の貸し出しを行っています。近隣との友好関係づくりとして、園児が利用している保育所裏手の路地を清掃したり、散歩の際に地域の方と挨拶を交わしたりしています。
- ② 園外活動として、地域のスポーツセンター、図書館などを利用し、また公共交通機関の路線バスを利用して遠足に出かけるなどして、子どもたちの地域への理解促進を心がけています。毎日の散歩では地域の方と積極的に挨拶を交わし交流しています。同一法人が運営する保育所や高齢者施設を定期的に訪問しており、年長児は進学先の小学校を訪問しています。同一建物内にある学童保育を利用している小学生とは、公園で一緒に遊んだり、小学校が長期休みの際に園でお手伝いをしてもらう、一緒に造形をするなど日頃から交流をしています。

IV-2 サービス内容等に関する情報提供



- ① 法人のホームページでは、サービス内容、各年度の現況報告、事業報告、決算報告などを掲載し情報提供をしています。また、園のブログでは、親子サロン、中学生の職場体験、遠足、運動会、誕生会など、日々の活動を掲載し紹介するなど、常に最新の情報を提供しています。また、園発行の「保育園 ViVi のしおり」には、施設の概要、保育理念、保育方針、職員体制、保育時間、利用料等の情報を掲載しています。
- ② 保育所利用に関する問い合わせには、職員は誰でも同一の対応ができるようにマニュアルが整備されています。利用を希望される方には見学できることも伝えていきます。見学に対応できる日は原則木曜日ですが、木曜日以外でも調整して対応しています。

IV-3 ボランティア・実習の受け入れ



- ① ボランティア・実習生受け入れに関するマニュアルがあり、受け入れの手順や保育を選んだ理由、得意なこと、服装、言葉遣いなどの確認事項の記載があります。ボランティアには、活動内容等の記録を記載してもらい、実際の活動内容を把握しています。親子サロンでボランティア活動をされた方からの提案で、英語で遊ぶプログラムを取り入れています。ボランティア・実習生とも受け入れは、主任と副主任が担当しています。
- ② 職員には、実習生を積極的に受け入れる方針を伝えていきます。実習生は毎日終了時に担当職員と振り返りを行い、記録、感想を記載しています。最近では、子育て支援員の実習も受け入れが多くなっています。実習生には、自分で選んだ絵本を持参し、子どもに読み聞かせをしてもらいます。実習生にとって、自分で選んだ本を読み聞かせて、子どもの様子を観察することにより、大きな気づきが得られています。

V 人材育成・援助技術の向上

V-1 職員の人材育成



- ① 保育人材の確保は、大きな課題として取り組んでいます。人材育成に関する計画については現在法人内で検討を進めています。保育内容については、学期ごとに「保育チェック表」を用いて振り返りを行い、それをもとに園長と面談して保育の改善につなげています。年1回全職員対象に理事長面接を実施しており、資質向上に向けて次年度の目標等を話し合っています。
- ② 法人研修を定期的実施しており、職員は交代で参加しています。保育短期大学や市社会福祉施設連絡会などが主催する外部研修にも積極的に参加しています。外部研修については、参加者が報告書を作成して回覧し、月1回開催される全体会で報告しています。園内研修ではAED心肺蘇生法の研修や園内で取り入れている「わらべうた」の研修をしています。園内研修は、非常勤職員を含めた全員が参加できるように保育時間終了後の時間帯を使って実施しています。

V-2 職員の技術の向上



- ① 職員の自己評価、それを踏まえた保育所の自己評価を実施しています。工夫・改善事例としては、保護者の要望や職員からの意見を踏まえて駐車場の増設を行いました。また、乳児用の散歩車も増やしています。園では「わらべうた」を取り入れた保育を展開していますが、その推進のため園外講師を招いて研修しています。保育短期大学での講座も受講して専門技術の習得に努めています。
- ② 月・週・日ごとの指導計画に対応し、それぞれの保育の振り返りを行っています。3歳未満児については、個別の指導計画に対応して個別に振り返りを行っています。また、保育日誌では、指導計画に対応した保育記録と振り返りを記載しています。日誌は毎日、園長、主任が確認し、必要な場合にはアドバイス、コメントを記載し職員をサポートしています。職員の振り返りの中から必要な事例について、園長、主任が取り上げてミーティング等で全職員が共有しています。

V-3 職員のモチベーションの維持



- ① 防災、保健衛生、社会貢献、教材、広報、各行事等について、それぞれ担当者が責任を持って企画、実行しています。散歩時の判断は、主任と副主任に任されており、一時保育の予約は担当者の判断で受付するなど、現場で責任を持って対応する体制が出来ています。その上で、最終的な結果責任は、園長が負う体制であることが全職員の共通認識になっています。経験・能力や習熟度に応じた役割・期待水準については現在法人内で策定中となっています。日誌やヒヤリハット事例の中から改善提案があれば、職員会議等で意見交換して業務改善に取り組んでいます。

VI 経営管理

VI-1 経営における社会的責任



- ① 職員採用時に「新採用職員説明事項」により、個人情報保護や職員として守るべきルールについて説明しています。個人情報保護遵守に関しては入職時に誓約書を提出しています。法人のホームページで各年度の現況報告、事業報告、決算報告などを掲載しており、法人の運営状況等の情報公開をしています。法人内の不適切な事故等は、法人の施設長連絡会議で情報共有し事故防止に取り組んでいます。また、報告のあった事件事例を持ち帰り園内で情報共有しています。
- ② 環境への配慮については、残菜の記録、分析を行った結果、年度初めは食事が減ることが分かり、対応した結果、残菜を減らすことが出来ました。その他裏紙使用の推進や、省エネに関しては、園外保育で出かける時は、公共交通機関の路線バスを利用しています。また、使用していない部屋は、こまめに消灯し、エアコンを切るなどを徹底しています。

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- ① 保育園運営理念、保育方針を職員に配付し、周知しています。職員の理念、基本方針の理解度については、園長、主任が常日頃の保育場面で点検しており、必要に応じて指導しています。主任は職員の業務状況を適切に把握して、職員をサポートしています。特に、主任クラスを育成するプログラムはありませんが、主任は新入職員の様子を観察して、業務への不安を受け止め、状況によっては声掛けをし、適切なアドバイスをするなど、スーパーバイザーとしての役割を果たしています。
- ② 重要な意思決定に際しては、職員、保護者に説明し理解を得るよう努めています。保育所の分園開設や増築・定員増に当たっては保護者懇談会で説明し保護者の理解を得ています。分園開設に伴い、新園長を選定する際には、保育現場を含め、法人内での意見交換を踏まえて決定しています。また、4・5歳児が参加する夏季のスイミング教室は、保護者の要望を踏まえて事業内容を決定していますので、園の主要な活動の1つとして定着しています。

VI-3 効率的な運営



- ① 事業運営に関する情報収集・分析については、法人本部が中心になって進めています。保育所の新設や老朽化に伴う建替えのための用地選定、行政情報の収集などに積極的に取り組んでいます。法人の施設長会議では、人材育成の計画について意見交換をしています。また、法人内の保育所運営の改善事例などを紹介し合い、自園の運営改善につなげています。
- ② 中長期的な計画書はありませんが、法人本部で保育所の新設や建替えについて検討・計画しています。保護者との連絡等について ICT を導入しました。スマートホンをかざしての送迎チェックやメールでの欠席等の連絡、さらには園で撮影した写真の注文など、ICT を活用して運営の効率化を図っています。また、園の経理、労務に関わっている会計士や社会保険労務士から、経営の安定に向けたアドバイスを受けています。

利用者本人調査

調査対象

園全体の在籍数：

0歳児クラス：3名

1歳児クラス：8名

2歳児クラス：9名

3歳児クラス：3名

4歳児クラス：8名

5歳児クラス：11名

調査概要

《乳児クラス・全体》

(朝の自由遊び)

0・1歳児室で子どもたち数人が元気に駆け回っています。2歳児室では、子どもたちが机を囲んで、いくつかの紙パズルを熱心にやっています。道路側のスペースはロッカーを仕切りにした一時保育室になっていて、一時保育の子どもが2人、引き出しから、ドレスのような服を引っ張りだし、着て遊んでいます。部屋の隅では、布団を敷いて子どもが一人横になり泣いています。朝から体調が悪いようでぐずっており、保育士がついて体をさすったり、言葉をかけています。一時保育の子どもではありませんが、感染症の可能性もあるとのことで、子どもの数が少ない、この場所に寝かせているとのことでした。

(午前遊び)

天気が良いので、全園児が川沿いの土手に散歩に出かけました。乳児グループと幼児グループは時間差をつけて出発です。

乳児グループは2台の散歩車と保育士が5人、園児が19人の大きなグループで出発です。

子どもたちは帽子をかぶり、上着を着て靴下をはいて温かくしていますが、鼻水が出て、時々保育士がティッシュで拭いています。0歳児3人は4人乗りの散歩車に乗っています。1歳児6人が大きな散歩車に6人乗って、つかまって立っています。歩ける1歳児と2歳児は0歳児の散歩車の両脇と3人の保育士が手つなぎで歩いています。

園から目的地までの道のりは、途中までは車やバイク、自転車などの往来が激しく、車が来るたびに保育士は「車くるよー」とお互いに声をかけ、子どもたちを道路の端に寄せて安全を確認してから進んでいます。途中から、歩き組と散歩車組は二手に分かれました。歩き組は市民菜園の中の小道を伸び伸びと歩き、突き当りの土手では急傾斜でしたが、一人ずつ、そろそろと登り、日ごろの練習ぶりがうかがえました。

歩きながら、子どもたちは猫や花を指差したり、絶えず単語を発して保育士と話しています。保育士は「にゃんこいるねー」等、返事をしたり、「前、見て！」と注意を促しています。子どもが途中でつまづいて転ぶと、「大丈夫？○○ちゃん」と急いで近づき、「泣かないね～、えらいね」と励ましています。散歩しながらすれちがうおじさん・おばさんに、「おはようございます」と挨拶し、子どもたちも手を振っています。

川沿いの土手のある原っぱに着きました。土手には大きな桜やヒマラヤ杉の木があります。ここで、0歳、1歳、2歳はそれぞれのグループに分かれて遊び、帰り際に、持参したお茶を皆で飲んでいきます。保育士は常に全員がいるか、確認しています。往路では子どもは全員、赤帽子でしたが、原っぱでは2歳児は裏返して黄色帽子にして、各クラスの子どもの様子が一目でわかるようにしていました。

《0・1歳児共通》

(午睡)

道路側に面した出入り口のカーテンを引いて、室内が薄暗くなっています。中央に保育士が子どもをおんぶして座り、周りに子どもたちの布団が放射状に敷いてあります。保育士はおんぶしながら、布団の子どもたちを、トントンして寝かしつけていました。背中の子どもは食事前に眠くなって、少し眠ったので、目がさえて眠れないため、おんぶしているとのことでした。他の保育士はうつ伏せになっている子どもを静かに、仰向けに直していました。子どもたちが寝入った時に一時保育の場所に布団を移動して、一部屋で見守るとのことでした。

《0歳児》

(午前遊び)

原っぱの隅にある階段数段と柵のある場所で、2人が登ったり、ぴよんと両足で飛び降りたり、階段の土台部分から、そろそろと降りたりを楽しんでいます。一番小さい、まだ歩けない子どもは原っぱに座り込んで、草をむしっては感触を楽しんでいるようでした。

《1歳児》

土手の斜面を登り降りして遊んでいます。登りはひとりで出来たけど、降りるのは怖くてべそをかいている子どもや自信满满で駆け回っている子どもなど、生き生きと遊んでいました。

《2歳児》

(午前遊び)

桜の大木の根元に枯葉が山になっていました。子どもたちは両手ですくいあげて飛ばしたり、潜り込んだり、上からジャンプして飛び込んだり、大喜びです。一人が木の枝分かれしているところに登りかけて、保育士が慌てて止めに入っていました。子どもが「ちくちくして痛い」と保育士に訴えています。保育士は「どれどれ、見せてごらん」とおなかや背中に入っていた枯葉をきれいに取り出していました。

(散歩の帰路)

眠くなってきた子どももいて、保育士2人は持参したおんぶ紐でおんぶしています。一人の子どもが遊んでいた小枝がなくなって大泣きをしています。保育士が「これかな」といくつも見せましたが気に入らず泣き止みません。保育士はおんぶしていた子どもを散歩車に移し、泣き止まない子どもをおんぶすると、すぐに泣き止みました。帰り道、1歳児の○君は担当の保育士と手つなぎで歩いてい

ましたが、途中、車の中の子どもの様子を見るために、他の保育士が変わろうとすると、たちまち、べそをかき嫌がっています。園に到着すると、園長が玄関で出迎えて、子どもたちの身支度を手伝っていました。園長は最後に入った保育士に玄関をさっと掃いてきれいにするよう伝えていました。

(食事)

2歳児の部屋で、0・1歳、一時保育の子どもと一緒に食事をしています。今日の2歳児は、3歳になると部屋が変わる準備として、幼児クラスと一緒に食事でした。献立はごはん・すまし汁・ししゃも2本、ポテトサラダ・煮昆布・ミカンでした。保育士も同じ食事を一緒に食べています。子どもたちがこぼしてもいいように、テーブルの下には、薄手の敷物が敷いてあります。子どもたちはエプロンをして、スプーンやフォークを使っています。食器は子どもの大きさに合わせた、小ぶりの陶器製のものが使われています。

0歳児の一番小さい子どもは、テーブル付きの椅子で食べています。1歳児の子どもが横に座っている担当保育士に、「まあまあ」と何か訴えているようでしたが、あとで確認すると、「〇〇」と保育士の名字の一部を言っていたようです。園では「先生」は使わず、名前で呼ぶようにしているとのことで、1歳児にも伝わっているようでした。途中で泣き出した子どもは、保育士がすぐに膝にのせ、子どもはすぐに泣き止んでいます。ししゃもは頭からしっぽまでついたそのままの形でしたが、とても柔らかく、子どもたちは手掴みで頭からむしゃむしゃと食べたり、保育士が小さくちぎったものをすくって食べたりしています。1歳児も2本ありましたが、全部食べて、おかわりもしていました。皆、食欲旺盛ですべて、完食のようでした。卵アレルギーの子どもは、トレイを使い、卵、マヨネーズを除いた除去食で、保育士が横についていました。

《3・4・5歳児クラス》

(登園後の様子)

登園が一段落すると、子どもたちは、保育士の声掛けで集まりだします。日課の絵本の読み聞かせが始まります。3歳児は保育士の一番近い所に座り、その後ろに4歳児、5歳児が行儀よく並んで座ります。落ち着かない子もいますが、保育士は子どもたちに気配りしながら、絵本を読み進めます。後から参加する子どもも何人かいますが、子どもたちはだんだん落ち着いてきます。絵本を読み終わると、今日の出席の確認になります。男の子は「～君」、女の子は「～ちゃん」と呼び、皆、大きな、元気な声で「はい」と答えています。出席確認が終わると、いよいよ1日の本格的な活動が始まります。

(午前遊び)

午前遊びは3・4・5歳児が合同の散歩です。行先は、幼児の足で20分程度の相模川河川敷の広場です。午前9時30分に園舎を出て出発準備です。年長児は3歳児とペアになり2列に整列して隣同士で手を繋ぎます。保育士の出発の合図とともに列を崩さずに目的地を目指します。保育士は先頭と最後尾で子どもたちの安全を確認しながら付き添っています。途中の歩車道が一緒になる道を通る時は、まず、車とすれ違う想定で一斉に道路脇のフェンスに身を寄せる練習をしてから歩き出します。実際に車とすれ違う場面が何回もあり、保育士の合図で車が行き過ぎるまで上手に道路端に避けてじ

っとして待っています。暫くしてから、出発の遅れた2人の園児と付き添いの保育士が追い付いて合流しました。これで全員が揃い、3人の保育士が見守りながら元気よく歩きます。途中で行き交う地域の方が温かい笑顔で迎えて「おはようございます」と声を掛け合っています。目的地の広場に着くと保育士から遊びのルールを聞いてから、持参した水筒や上着を広げたシートに置いて、思い思い好きな遊びに集中します。砂遊びをする子、大きな石に乗ってみたり、木登り、鬼ごっこなどをしたりして楽しんでます。流木を拾う子ども、ススキを折って持ち帰る子ども、木の実やBB弾を拾い集める子どももいます。土手も、昇ったり降りたり遊び場所として人気です。枯れ葉が深々と積もったところでは、寝転んだり、枯れ葉を両手につかんで放り投げたりしながら大はしゃぎです。その間、保育士は子どもたちの安全を見守りながら遊びに付き合っています。楽しい時間はあっという間に終わり、帰り道も往きと同じように安全に気をつけながら園を目指します。園舎に入る時は、順番が来るまで縁石に座って待っています。子どもたちが持ち帰った落ち葉などで散らかった玄関を、保育士はほうきで丁寧に掃いています。園ではすでに食事が用意されており、散歩で思い切り遊んですっかりお腹の空いた子どもたちを待っていました。

(食事)

昼食は、2歳児から5歳児の子どもまで一緒に食べます。2歳児は3歳になると部屋が変わるので、今日はその練習として幼児クラスと一緒に食べるようです。配膳は5歳児が白いエプロンを着けて手伝っています。テーブルには、子どもたち手作りのランチョンマットが敷かれています。それぞれ好きな食べ物などが描かれており楽しい食事を演出しています。席はクラスごとに分かれています。クラスの中では自由になっており毎回違う席についています。昼食の主菜はししゃもです。ししゃもを頭から食べる子ども、骨をきれいに残す子どもなど様々です。丸ごと骨も安心して食べられるように、とても柔らかく調理されています。「魚も好き。なんでも食べないと大きくなれないよ。」と言いながら食べている子どもがいます。午前中に十分遊んだためか、「お代わりの人はどうぞ。」「もうすぐなくなってしまうよ。」などの声掛けで、何回もお代わりする子どももいます。子どもたちは周囲の友だちと活発にお話ししながら食べていますが、お代わりの時以外は席を離れずお行儀よく食べています。食べるのが早い子、遅い子がいますが一人一人のペースを尊重して食事が進んでいます。保育士はそれぞれ担当のクラスの子どもたちと一緒に見守りながら食事をしています。最後は、5歳児が毎日交代でする声掛け「用意はいいかい。」「もういいよ。」「せーの」手をポン「ごちそうさまでした。」で終わります。子どもたちは一斉に残り物の処理や下膳、テーブルや椅子の片づけをして午睡の準備をしています。

(午睡)

食事が終わると、午睡の準備です。食事と同じ場所で午睡をするため、テーブルや椅子を部屋の隅に収納します。テーブルは折りたたみ式で、それほどスペースを取らずに収納できます。子どもたちは、椅子を壁際に設けられた棚の下に積み重ねて収納します。机、椅子が片付いたところで保育士が箒で部屋をきれいに掃除し、午睡用の布団を用意します。その間、子どもたちは部屋の片隅に集まり、保育士が読む絵本の物語を聞いています。季節柄、クリスマスに関連した物語です。保育士は、絵本に集中できない子どもにも気を配りながら時々声掛けをしています。午睡時間の前で眠そうな様子の子どももいます。午睡の用意が出来ると子どもたちはそれぞれの布団に向かいます。窓のブラインド

を下すと部屋は静かな眠りの世界に入ります。

(誕生会)

月に一度誕生会を開催します。誕生会は全園児が乳児室に集まって行われます。今月の主役は、2歳児が1名、3歳児が2名です。テーブルの上には本物そっくりな大きなデコレーションケーキが置いてあります。主役が1人ずつ園児たちの歌う「ハッピーバースデー」に促されてローソクの炎を吹き消します。その時は照明を消して雰囲気たっぷりです。それぞれに質問の時間が設けられ、「好きなゲームは何ですか」、「イチゴは好きですか」などの質問があります。恥ずかしそうな様子の子もいますがなんとか主役を演じることが出来ました。最後は全員でクリスマスの歌を歌って終了です。

(おやつ)

今日のおやつは、卵と鶏肉入りの雑炊とミルクです。薄味ですが子どもたちは、「おいしい」と言いながら、勢いよく食べてお代わりをする子もいます。同じクラスで一緒のテーブルを囲んでいますが、席は自由で多くの子どもは昼食の時とは違う席に座っています。昼食の時以上に元気にぎやかな時間です。子ども同士のおしゃべりに夢中になっています。午睡について尋ねると「一人でできたよ」と得意げに話す子もいます。午睡後の活動で子ども同士の小さなトラブルがあり、軽いひっかけ傷を訴えている子どもがいましたが、保育士に優しく傷を消毒してもらい、安心した様子でした。おやつも「用意はいいかい」「もういいよ」「せーの」で手をポン「ごちそうさまでした。」で終わり、下膳やテーブルの片づけをして午後遊びの準備をします。

家族アンケート結果

アンケートの概要

1. 調査対象

利用者の全家族

2. 調査方法

アンケートは評価機関で準備をして保育園から配布してもらいました。回答は家族から郵送にて直接に評価機関に送っていただきました。

3. アンケート発送数等

発送数：	41 通	返送数：	15 通	回収率：	37%
クラス：	0歳児： 1 通	1歳児：	0 通	2歳児：	5 通
	3歳児： 3 通	4歳児：	2 通	5歳児：	4 通

4. 全体をとおして

保育園利用の全家族にアンケートを行い、家族から回収率は37%に留まりました。

家族からの「保育園を総合的に評価した」満足度は100%（「満足」80%、「どちらかといえば満足」20%）となっています。

個別で「満足」の多い項目は、「給食の献立内容」であり「満足」が93%となっています。その他には、「お子さんが給食を楽しんでいるか」「基本的生活習慣の自立に向けての取り組み」「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動」において「満足」が80%であり、保育内容への満足がうかがえます。また「お子さんが入園する時の状況について」でも、4項目について「満足」が80%であり満足している状況です。

また、ほとんどすべての項目は「不満」0%であり、1項目「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか」のみで「不満」7%となっています。

自由記入欄では、「先生はとても親切で満足です。」「心優しい先生方のお陰で子どもは楽しそうで、感謝しております。」「家庭の状況をとても理解して頂いて、嬉しく思いました。」などの声があります。ほかには「行事がなくなり子どもも寂しがっています。」「費用発生の説明が無く、相談して欲しいなと思います。」などの意見もあります。

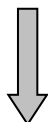
「あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか」では、「まあ知っている」を含めて73%が知っています。この知っている方の100%が保育目標・保育方針に賛同しています（「まあ賛同できる」を含む）。さらに園の考えを周知して「賛同できる」保護者を増やすとともにアンケートの回収率を上げる工夫も望まれます。保護者と保育園の協同により保育の質の向上につながる事が期待されます。

アンケート結果

■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか

1 よく知っている	3 どちらともいえない	4 あまり知らない
2 まあ知っている		5 まったく知らない



1	2	3	4	5	無回答
20.0%	53.3%	0.0%	26.7%	0.0%	0.0%

付問1 【「1 よく知っている」または「2 まあ知っている」とお答えの方】

あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

1 賛同できる	3 どちらともいえない	4 あまり賛同できない
2 まあ賛同できる		5 賛同できない

1	2	3	4	5	無回答
81.8%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	80.0%	13.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	73.3%	20.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%
	その他:忘れてしまった					
お子さんの生育歴などを聞く対応には	80.0%	13.3%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%
	その他:覚えていない、					
保育園での一日の過ごし方についての説明は	80.0%	6.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなどもも含め、費用やきまりに関する説明については	73.3%	6.7%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	73.3%	13.3%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	66.7%	6.7%	13.3%	6.7%	6.7%	0.0%
	その他:わからない					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	73.3%	20.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	60.0%	26.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	93.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	73.3%	20.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	60.0%	26.7%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%
	その他:すでにはずれていた、					
お子さんの体調への気配りについては	66.7%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	66.7%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	60.0%	26.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	66.7%	20.0%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%
	その他:わからない					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	53.3%	33.3%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	60.0%	26.7%	6.7%	0.0%	0.0%	6.7%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	60.0%	26.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	60.0%	33.3%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	66.7%	13.3%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	66.7%	20.0%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%
	その他:わからない					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
意見や要望への対応については	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						

問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足しているか

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%

事業者コメント

事業者名：社会福祉法人 藤雪会 保育園ViVi
施設長 斎藤 美好

開園14年目にして初めて第三者評価を受審しました。
各グループに分かれて職員1人1人が保育園ViViについて考え、評価する貴重な時間を
持つ事ができました。
子供たちにとってよりよい保育を行う為にまだまだ沢山の改善点があることに気付きました。
それらを基に一つ一つ丁寧に見直し、改善をしていきます。

また、保護者アンケートにご協力頂きありがとうございました。
回答率としては少なかったようでしたが、総合的には現状の保育にご賛同いただいている印象
を受けました。しかしながら、まだまだ説明が足りない部分があることがわかりました。
全職員で真摯に受け止め、丁寧な説明を信頼関係の構築に努めていきます。

今後も笑顔と元気とユーモアをもちながら保育園ViViの子ども達の「生きる力を育て
る」保育を行います。



株式会社フィールズ

〒251-0024 藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3F

TEL : 0466-29-9430 FAX : 0466-29-2323